農業に誇りを
計画的農業投資の増大へ

「第一回農業大学」が教えるもの

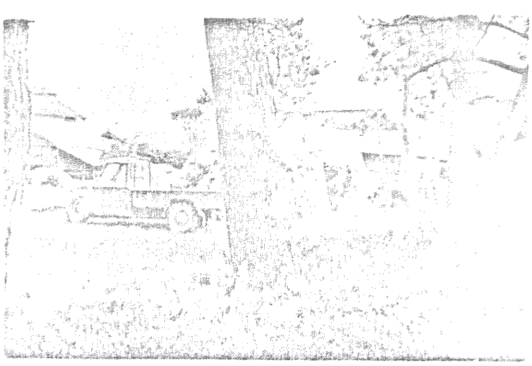
高知県の[illegible]乏しい財政のなかから、[illegible]円という予算をさいて、長い準備期間を経て行なわれたこの講座は、単なる生産技術や農業経営のみでなく、広く日本の経済と世界経済の流れの中で、農業をどうしなければならないかを教え、その実現の方法はどうか、その実現の可能性を示したところに大きな意義があったと深く感謝している。

ほんの少数の者が中央で接し、ご指導にあづかっていた各界一流の講師の話を多くの市民とともに親しく聞くことができたことは大きな収穫であった。

一部に話がむつかし過ぎた、期待外れだ、時期が悪いなどの批判をいただいているが、ア[illegible]も良く整理して、[illegible]にしなければならない。

以下学び得たことを、[illegible]述べて見たい。

「人手不足」、農民にとって年々真刻となり、わたしたちにとって困ったこの問題について、講師は困ったというより、むしろ日本農業が前近代的農業から、近代化[illegible]と強調していた[illegible]



[illegible]

[illegible]それは[illegible]の[illegible]の農業のやり[illegible]が[illegible]進んでない方法で農業をやっているからである。なつかしい言葉でいえば「低生産性農業構造」のためである。

第二は、「農業機械化」の問題である。以上二点を解決するためには、＝土地基盤整備＝を行なって、「高能率機械化」によって、一人が短時間にできるだけ多くの仕事ができるようにしなければならない。

[illegible]投資についても、[illegible]必要な[illegible]、現在の日本経済は[illegible]能力がある。"要は農民が[illegible]ということにある"と確信に満ちて力説された。

紙面の都合上、多くは述べられないが、以上総合して考えられることは、農民の年中行事の米価値上げ運動も、単なる値上げのみではわれわれの農業はよくなるものではない。われわれ農民が、農業斜陽論劣等感を振り捨てて、日本（南国市）の農業に自信と、希望と、誇りを堅持しつつ、真の農業改革への継続的、計画的農業投資の飛躍的増大を政府に対し、米価運動と等しい行動を起すべき時期が来たことを教えられた。

徳永　安雄

保存に気を付けましょう

名所、古跡、有名な建造物が付近にチリの山をつくられたり、広場に物件が放置されて風致を害したり、損傷の原因をつくっていることを見かけます。

写真は前浜にある伊都岐神社境内。状態はいつも変わりますが、とにかくひどいもので芝生は次々にハゲてきました。

祖先が残した〝形見〟をだいじにしましょう。

[illegible]

溝渕木材工業（株）

新建材は在庫豊富な

溝渕木材へ!!!

ナショナル[illegible]南国[illegible]

各種プリント

ナショナルタイル

電話　2508番